

令和4年12月21日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和4年11月分

～令和4年11月 データから見た業界の動き～

令和4年12月21日 発表

製造業と非製造業で先行きの見通しに大きな差
収益の確保・人材確保が事業継続のポイント



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215 FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

～令和4年11月 データから見た業界の動き～

令和4年12月21日 発表

製造業と非製造業で先行きの見通しに大きな差
収益の確保・人材確保が事業継続のポイント

■ 概 況

11月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 +4ポイント（前年同月比16ポイント↓）

収益状況 ▲24ポイント（前年同月比20ポイント↓）

景況感 ▲10ポイント（前年同月比4ポイント↓）となった。

前年同月は県内の新型コロナウイルス感染症新規発症者数ゼロの日が多く、全国を見ても感染者数が減少傾向にあったのに対し、今月はコロナ感染者の増加による第8波の危機感があらわれ、すべての項目において悪化した。

業種別で、製造業では…

売上高 +5ポイント（前年同月比10ポイント↓）

収益状況 ▲20ポイント（前年同月比5ポイント↓）

景況感 ▲30ポイント（前年同月比20ポイント↓）となった。

すべての項目において前年同月の数値を下回った。特に景況感は▲20ポイントと大きく下回った。仕事量は多くの事業者が増加を感じているものの、原材料や電力価格の高止まりにより、収益確保が困難な状況が続いていることに加え、需要の低迷が続く業界からは先行きの見通しがつかないと不安感を表す報告があった。（家具製造・紙製造業）

非製造業では…

売上高 +3ポイント（前年同月比20ポイント↓）

収益状況 ▲27ポイント（前年同月比30ポイント↓）

景況感 +3ポイント（前年同月比7ポイント↑）となった。

売上高・収益状況D.I値ともに前年比で大きく下回った。全国旅行支援策により第8波の環境下でも宿泊業界は好調。今年は3年ぶりとなる行動制限なしの年末となる予想によって小売・サービス業を中心に売上回復に期待が見られるが、物価の高騰が続き収益状況は悪化しており、価格転嫁がカギとなる。

仕事量がコロナ禍以前まで戻りつつあるが、物価の急激な高騰による収益の悪化や大企業との賃金格差が広がり中小企業者は人材の確保が難しくなっている。

経営資源が乏しいとされる中小企業者は生き残りをかけ顧客や従業員から「オンリーワン」とする独自の強みを現す事が重要であると考えられる。

■ 調査員からの要望・コメント

「できるだけ安く」が求められている中で民間企業と同様に行政機関の官公需においても、効率的な発注が求められている。

ただし、一方では効率化を求めるあまりに大規模な一括発注となり、工事にしても物品にしても県内事業者の受注機会を喪失させているとの考えを示す事業者が多く存在する。

大型・大規模な発注は一見効率が良いように見えるが、価格競争で大手大企業に地元中小企業者が太刀打ちできず、また専門性を有しない事業者が落札すれば安心・安全な施工はできないことも懸念される。中央会では県内中小企業者の育成・経済の活性化のためには分離分割発注や積極的な随意契約が望ましいと考えている。

■ 業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	ギフト関連商品の売上げは前年を下回ったが、コロナ規制緩和で人流が活発となり、居酒屋・ホテルでの業務用商品は、需要が増えていることから、売上げは前年同月と比べ111%増加となった。
食料品 (洋菓子製造業)	店舗拡大効果から前年同月と比べ売上げは120%増加した。年末に向けてのクリスマスケーキの売上げも前年同月と比べ120%増加を見込んでいる。
食料品 (パン・菓子製造業)	包材、原材料、光熱費が高騰し、利益が出にくい状況にある。利益の出ない商品をカットし、利益の出る新商品の開発に取り組んでいる。
食料品 (酒類製造業)	今年度はワイナリーフェア、ヌーボーまつり等がリアル開催となったが、コロナ以前の賑わいに戻すのはまだ難しい。
繊維・同製品 (織物)	11月に東京国際フォーラムで開催された「Premium Textile Japan 2023 A/W (織物、布地のビジネス商談会)」での商談結果に期待している。
木材・木製品製造	例年、年末かけて受注量が増加し、工場・現場共に人手不足が問題であるが、閑散期と繁忙期の差が大きく人材確保が難しい。
家具製造	住宅市場に関しては、物価上昇により消費者の購買意欲が低下、展示場来場者数も減少し市況は伸び悩んでいる。今後も低迷は続く見通しである。 販売製品への価格転嫁は徐々に進み、円安傾向も落ち着きを見せたことから収益状況は好転しつつある。
紙製造業	依然としてコロナ禍の影響により、需要の低迷が続いており、前年同月と比べ売上げ▲20%となった。
窯業・土石 (砂利)	例年に比べ工事量が少なく進捗も遅れ気味。骨材価格は上昇するも、燃料等の値上りによって収益は減少し、前年同月と比べて収益状況は▲10%となった。
窯業・土石 (山碎石)	11月は舗装工事の完成時期であった事と渇水期工事が発注された事が要因で、売上げは前年同月と比べ10%増加したが、工事の進捗状況から今後は減少することが予想される。 電力や燃料等の急激な価格高騰、ならびに運搬賃の価格転嫁が進まないことから不況感が強く感じられる。製品価格への転嫁は中々進展しない状況である。
一般機器 (生産用機械器具製造業)	販売価格の値上げ要請をした関係で、前年同月と比べ売上げは7%増加し、仕事量も確保できているが、業界全体が好転したわけではないと考える。依然として資金繰りは厳しい状況が続いている。
宝飾 (研磨)	来年1月の国際宝飾店に向けて在庫を増やしている。

● 非製造業

<p>卸売 (自動車中古部品)</p>	<p>廃車の発生台数が少なく、競合他社との価格競争の影響もあり、前年同月と比べ売上げ、収益ともに▲40%となった。繁忙期である3月に期待している。</p>
<p>卸売 (ジュエリー)</p>	<p>集客事業はコロナ禍以前に戻りつつあるが、物価高の影響で消費者の購買意欲は低いまである。年末商戦に向けた商品も地金やルース(石)等の高騰分により販売価格が高騰しており、受注ロット数も減少している。来年の3月以降海外展示会の開催を予定しているため、輸出額の回復を期待している。</p>
<p>小売 (青果)</p>	<p>今年は柿が豊作で安値であった。12月下旬は漬物のシーズンだが、干し大根などは需要・供給共に少なくなってきた。</p>
<p>小売 (食肉)</p>	<p>全国旅行支援により宿泊施設の客足は回復傾向にある一方、飲食店は利用者が少なく売上げが低迷している。 12月は宿泊施設の稼働回復が見込まれるが、飲食店は忘年会の予約も少なく厳しい状況が続いている。 円安の影響で外国産肉が値上り、国産食肉もエサ代の高騰、豚・鳥インフルエンザの影響で高値で取引されている。</p>
<p>小売 (電気機械器具小売業)</p>	<p>物価高騰による買い控えの影響で、主力商品のエアコン・テレビの売上げが前年同月を大きく下回り、特にエアコンに関しては▲30%となった。電力などのインフラに係る価格値上りにより、省エネ商品への買い替え需要が増加しており、冷蔵庫の売上げは前年同月と比べ22%増加した。今後は更に省エネ商品への買い替え需要が増加すると予測している。</p>
<p>小売 (ガソリン)</p>	<p>年末までは燃料価格激変緩和対策事業が現状の補助内容で実施されることから市場価格は比較的安定している。 11月初めに93.7ドル/バレルであったドバイ原油が11月末には80ドル/バレルに、為替も147.51円から138.53円と円高に振れており、原油調達コストは下がってきているが、年明けから激変緩和事業の補助金上限額が段階的に調整されることが決定しており、石油業界としては政府の動向を注視している。</p>
<p>商店街</p>	<p>組合が管理する駐車場の売上げは前年同月に比べ増加したが、商店街で利用可能なポイントカード(Mカード)の発行売上げを見る限り、各店の売上げ減少は深刻な状況である。 例年12月は歳末セール等により客足が増加する時期であるが、コロナウイルス感染拡大の状況や物価上昇の影響により、今年は厳しくなると予測している。</p>
<p>宿泊業</p>	<p>全国旅行支援の影響により、宿泊者数は増加傾向にある。コロナ感染者が急激に増加したが、キャンセルが相次ぐ様子は見られない。全国旅行支援を利用し来県したお客様にリピーターとして再来県してもらえよう各施設の努力が必要である。</p>
<p>美容業</p>	<p>コロナ感染者が増加している状況の中、来客者数の減少、回転率の鈍化がみられる。</p>
<p>一般廃棄物処理</p>	<p>資源物(リサイクル)の取引価格が短期間で上下する中で、収集運搬業者と自治体との契約金額が問題となる事例が出ている。 取引双方は、事前に契約内容を精査・検討し健全な決済方法をとるべきであったと考える。</p>

警 備 業	<p>11月は工事関連で警備員の需要が年間で最多となったが、各組合員において人員不足から警備員が確保できず、受注を断念せざるを得ない状況となっている。</p> <p>また、コロナウイルスの影響で延期となっていた春・夏のイベントが再開するも、警備員不足から受注できず、受注しても発注者の希望人員に満たすことができない状況となっており、前年同月と比べ売上げ▲7%、収益は▲2%となった。</p> <p>業界は、警備員数の減少が課題、高齢化や体力面での退職のほか、新入社員の応募もほぼない。各種媒体を活用して人員募集を行うが、応募者があっても警備員の資質に欠けていたり、採用後に辞退という状況が続き、人員確保が困難となっている。</p>
建 設 業 (総 合)	<p>11月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ、公共工事の件数は3%増加しているが、請負金額は3%の減少となっている。11月末累計でも件数で4%、請負金額でも6%それぞれ減少している。</p>
建 設 業 (型 枠)	<p>型枠工事の主要材料であるコンクリートパネルを始め材料が軒並み高騰し、燃料価格の高騰に対する価格転嫁も進んでいない。来年度以降に減少が見込まれる公共・民間工事に対する低価格での受注競争も始まっており、来年は厳しい1年になることが予想される。</p>
建 設 業 (鉄 構)	<p>鉄スクラップの価格は大手販路メーカーが10月から3ヵ月販売価格を据え置きしたものの7月から上昇と下落を繰り返し、鋼材価格は高止まりとなっている。原材料・電力の価格上昇により収益確保が難しく、副資材を含め材料費の削減を検討する必要がある。</p>
設 備 工 事 (管 設 備)	<p>月単位で工事高が変動している為、先行きの見通しが難しい。年末から年度末にかけての受注量の増加を期待している。</p>
運 輸 (タ ク シ ー)	<p>今年は行動制限がなく忘年会で夜間のお客様も増えてきているため、タクシーの稼働台数を増やしていきたい。</p>
運 輸 (バ ス)	<p>仕事は増えたが人員不足、求人募集を行っても人が集まらない。</p>
運 輸 (ト ラ ッ ク)	<p>年末に向けて荷物が動き出しているが、長引く燃料の高騰が響き、収益は回復していない。コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、今後、人手不足にも拍車がかかりそうである。</p> <p>また、車両の購入に関しても、部品調達が困難な状況や、一部メーカーの生産中止等を受けて納車にかなり時間がかかっており、老朽化した車の維持に係る経費もかさんでいる。今のところ、業界の状況が好転する要素が見当たらない。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2021/11	2022/10	2022/11	2021/11	2022/10	2022/11	2021/11	2022/10	2022/11
売上高	15	25	5	23	17	3	20	20	4
収益状況	-15	-45	-20	3	-20	-27	-4	-30	-24
景況感	-10	-35	-30	-3	0	3	-6	-14	-10

※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

